

各 位

令和8年度稲作情報 第8号について

このことについて、送付しますので業務及び水稻栽培の参考にしてください。

令和8年度 稲作情報 第8号

唐津農林事務所 東松浦農業振興センター長

1 気象概況(観測点:唐津アメダスデータ)

※表記方法:6 半旬別(1ヶ月を6 分割。1 半旬は1～5 日となります。)

気温:平均 降水量・日照時間:合計

※平年値:平成22年～令和2年(11か年)の平均値

月	半旬	平均気温 (℃)		最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8
6	1	20.9	21.4	25.2	25.3	17.3	18.8	18.2	28.5	27.3	7.4
	2	21.4	21.1	25.4	25.2	18.2	17.4	27.2	13.5	24.5	31.2
	3	21.9	22.0	25.7	27.9	19.0	17.3	40.5	0.0	22.3	40.1
	4	22.4	24.6	26.1	29.2	19.6	21.4	54.5	26.0	20.6	11.4
	5	23.0	21.9	26.6	24.4	20.4	20.4	65.1	217.5	17.8	6.1
	6	23.9	22.0	27.3	26.2	21.3	19.3	73.6	63.5	14.8	25.9

6 月 5 半旬から 6 月 6 半旬にかけて平均気温は平年より 1～2℃低かった。6 月 23 日から 26 日にかけて 1 日あたり 50mm 以上の大雨が続いたため、6 月 5 半旬の降水量は平年の 3 倍と多く、日照時間は平年の 3 割と短かった。6 月 6 半旬は晴天の日もあり、降水量は平年の 9 割と少なく、日照時間は平年の 1.8 倍と長かった。

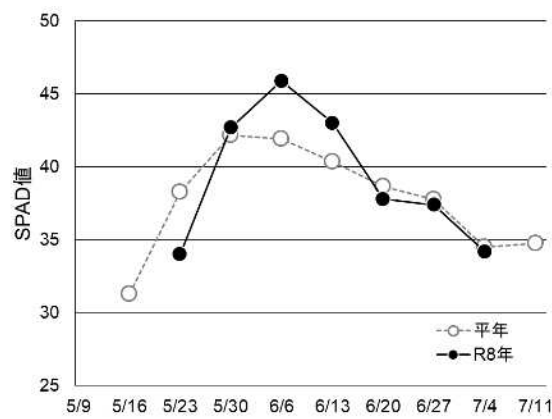
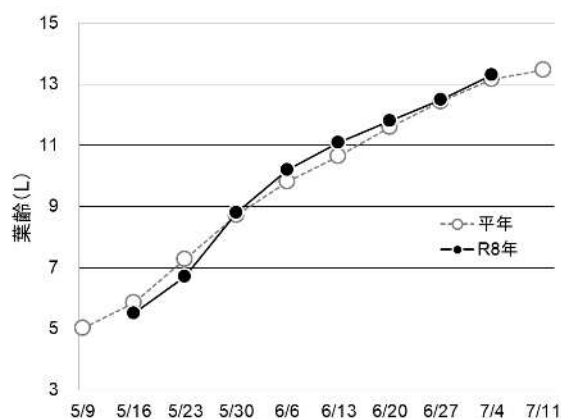
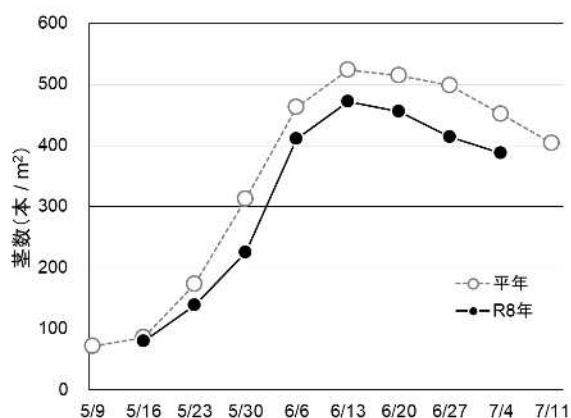
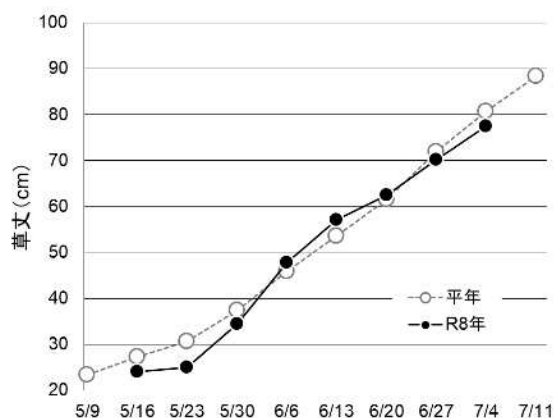
2 生育状況

上場コシヒカリ情報田調査結果 鎮西町潟 4 月 24 日移植 18.3 株/m²(60 株/坪)

(7月1日調査結果)

項目	本年	前年	平年	前年比・差	平年比・差	備考
草丈(cm)	77.5	79.5	80.7	97	96	やや低い
茎数(本/m ²)	387	409	452	95	86	少ない
葉齢(L)	13.3	13.0	13.2	0.3	0.1	平年並
葉色(SPAD)	34.2	35.4	34.5	4.7	-0.3	平年並
葉色(葉色板)	2.6	3.0	3.1	-0.4	-0.5	淡い

※平年値:令和元年～令和7年までの値から最高・最低値を除いた平均値



草丈は平年よりやや低く推移している。茎数は平年の 8 割とかなり少ない。葉齢と葉色 (SPAD) は平年並みで推移している。情報田では 6 月 23 日に穂肥を施用した。

3 今後の管理について

(1) 水管理

- ・4 月下旬に移植された圃場では、7 月 7～14 日頃に出穂する見込みです。出穂前後 (穂ばらみ期～穂ぞろい期) は最も水を必要とするため、間断灌水を継続するか浅水管理としてください。中干しが十分でなかった圃場では、落水期間を長くして地面を固めてください。台風接近時は稲体の水分収奪や稲体の動揺による茎葉の損傷を軽減するために深水としてください。穂ぞろい期以降は間断灌水にします。
- ・5 月中旬以降に移植された圃場では幼穂形成始期を迎えています。間断灌水に移行しましょう。



間断灌水

(2)病虫害防除

①斑点米カメムシ類

- ・農業技術防除センターから斑点米カメムシ類の病虫害注意報が発出されています。管内でも平年より多く確認されている地域がありますので、以下対策を徹底してください。
- ・畦畔雑草は斑点米カメムシの増殖・飛来源となります。出穂 10 日前まで(止め葉が完全に抽出する前まで)に除草を行いましょう。出穂直前以降に除草を行うと、畦畔に生息する斑点米カメムシが圃場内に移動し被害が助長されます。
- ・出穂 10～15 日後(乳熟期)にスタークル豆つぶ等による薬剤防除を行ってください。発生が多い場合は穂揃い期と乳熟期の 2 回防除を実施してください。

②イネカメムシ

- ・近年イネカメムシによる被害が増加しています。特に周辺より出穂が早い、または遅い圃場に飛来が集中するため、発生状況を観察し、早期発見に努めてください。発生がみられた圃場では、斑点米カメムシ類を対象とした上記防除に加え、出穂期の防除を徹底してください。



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



アカスジカスミカメ



イネカメムシ

③ウンカ類

- ・農業技術防除センターが実施している定期調査では平年よりやや少ない発生となっていますが、今後の発生状況によって臨機防除が必要となります。田回りをを行い発生状況に注意してください。

④紋枯病

- ・前年に紋枯病が発生した圃場では菌核が圃場に残り、本年も発生する恐れがあります。発生を認めた場合は、薬剤防除を実施してください。なお、液剤・粉剤の場合は出穂 20～10 日前、粒剤の場合は出穂 30～20 日前を目安としてください。



紋枯病

⑤穂いもち

- ・出穂前後に曇雨天が続くと穂いもちが発生しやすくなります。止葉や上位葉に病斑が見られる場合は、穂ばらみ期(出穂前)に薬剤防除を行ってください。
※散布にあたっては薬剤の使用時期を十分に確認してください。
※佐賀県特別栽培農産物表示制度に取り組んでいる圃場では、使用可能な薬剤の成分数に上限があるので注意してください。

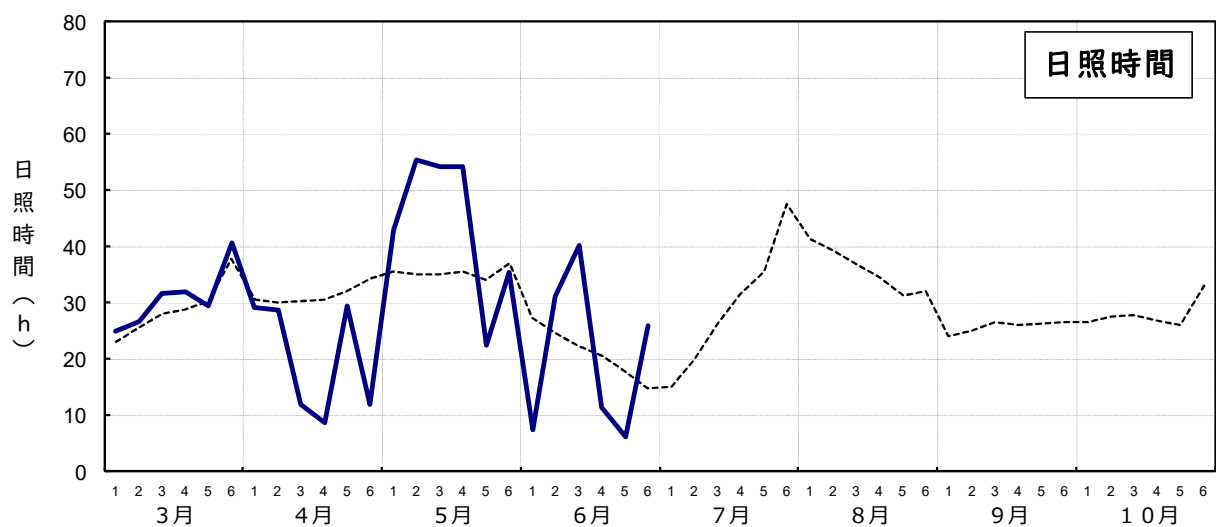
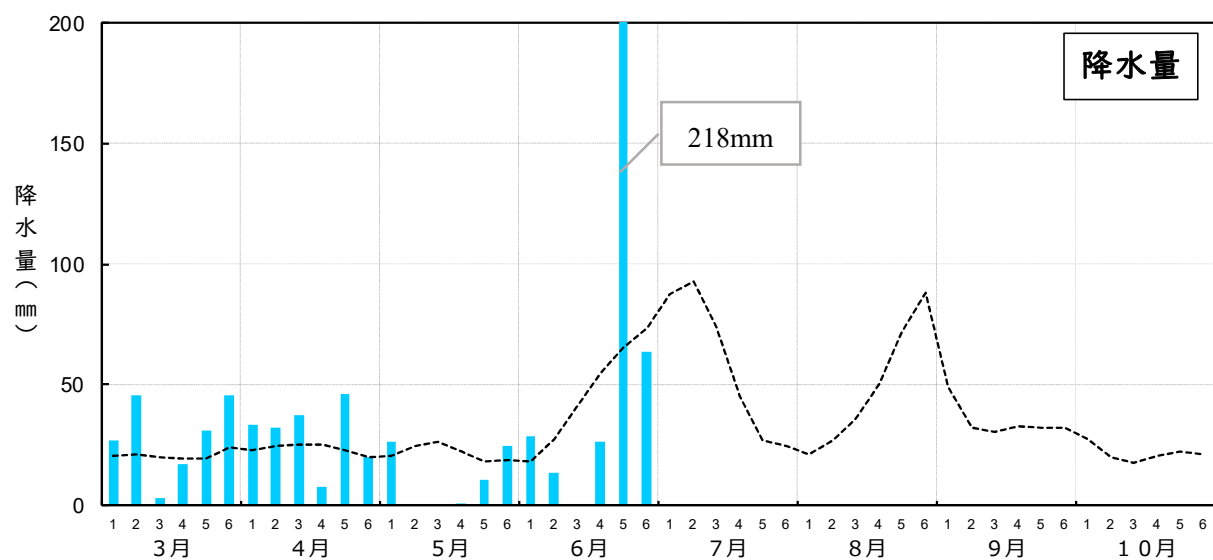
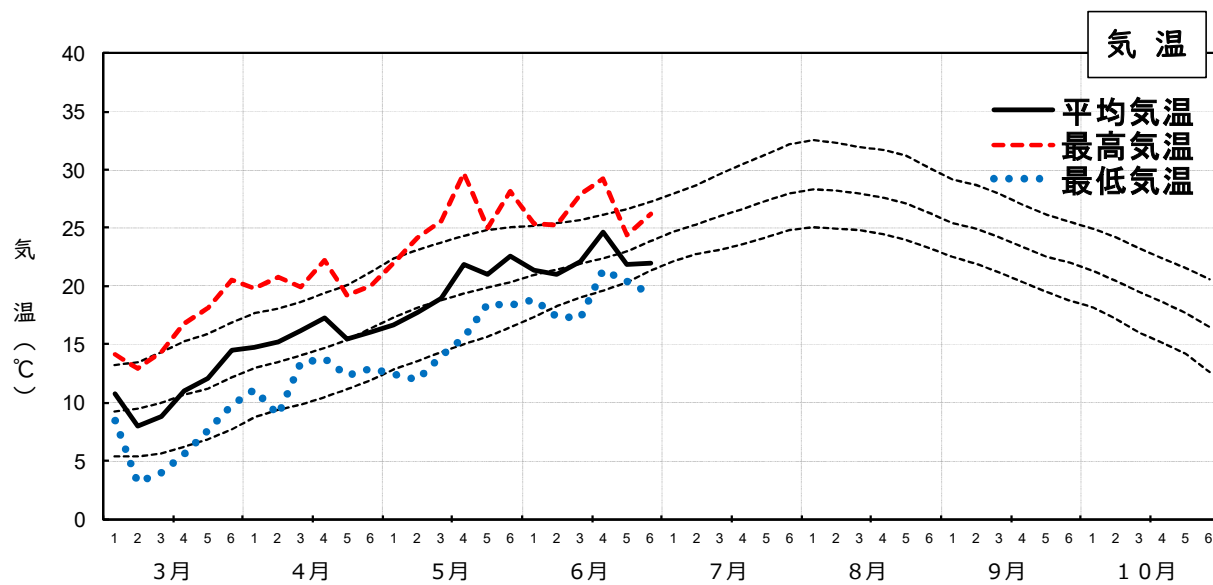


穂いもち

いもち病防除薬剤

薬剤名 (成分名)	本剤の 使用回数	本成分の総使用回数	使用時期	注意事項
ダブルカット粉剤3DL (カスガマイシン・トリシクザール)	2回以内	カスガマイシン：本田2回以内 トリシクザール：本田3回以内	穂ぞろい期まで	
トライK粉剤DL (エチプロール・テブフロキン)	2回以内	エチプロール：2回以内 テブフロキン：2回以内	収穫14日前まで	
ブラシン粉剤DL (フェリムゴン・フサライド)	2回以内	フェリムゴン：2回以内 フサライド：3回以内	収穫7日前まで	たばこ・大豆・小豆等にかからないように注意

令和8年産 水稻作付期間気象図 アメダス観測値(唐津)



注) 平年値: 平成 22 年～令和 2 年の平均値